

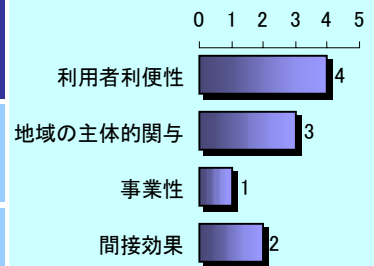
事例 18—志賀町コミュニティバス 「まごころバス・なないろバス」

■事業主体 ■石川県志賀町

■運行事業者 ■能登西部バス株式会社、高浜タクシー株式会社

■運行区域 ■志賀町内

関連HP <http://www.town.shika.ishikawa.jp/>



導入の背景・目的

高浜バスターミナルを起点として運行するバス輸送は、マイカーを利用できない高齢者や学生などにとって、欠くことのできない交通手段となっている。しかし、近年のバス利用の低迷による採算性の悪化により運行本数が減少し、午前中1便のみの路線や交通空白地帯となっている集落も多く存在し、住民生活に支障をきたしている現状も見受けられる。一方、町内に整備進行中である医療施設

や公共施設等へのアクセス手段を確保することも住民福祉の視点、町の活性化の視点から重要であること等から町民全てが利用できる身近な交通手段としてコミュニティバスを導入することとなった。

図1 まごころバス



事業概要

路線：8路線

- ・「まごころバス」：高浜市バスターミナルを起終点に高浜地区を巡る市街地循環線
- ・「なないろバス」：郊外7路線

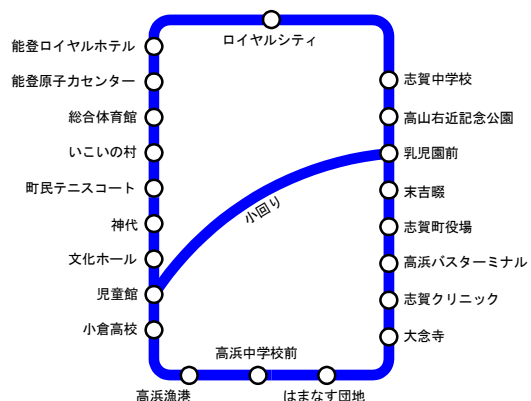
運賃：

- ・市街地循環線「まごころバス」は無料。郊外7路線「なないろバス」は100円
- 運行便数：11便/1日（平日・休日）
- 運行開始時期：平成14年7月（本格運行）

運行事業者：

- ・能登西部バス株式会社、高浜タクシー株式会社（道路運送法21条の乗合運送許可）
- 初期費用：
- ・「まごころバス」は町民の寄附により購入した小型ノンステップバス

図2 まごころバス路線図（市街地循環線）



導入時のポイントー苦労した点・工夫した点

<p>【苦労した点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町域が広く、地区を分けると8地区存在。地区毎に路線の確保が必要であった。 ・路線決定において、路線バス事業者と競合しないよう配慮することに苦労した ・各地区の奥まった人家から500m以内を目安にバス停を設定しなければならず、適切なバス路線とバス停の選定に苦労した。 	<p>【工夫した点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入にあたっては、費用対効果の観点から、8路線を6台のバスで運行することとし、経費の節減を図った。 ・温泉保養施設利用者の乗換利用については「乗継券」を発行することで全ての路線内が100円となるよう工夫している。 ・バス運転手を町内在住者に限定していることで、気軽に声をかけることができる。
---	--

事業効果と今後の展開

【事業効果】

乗車人員：

- ・平成14年4月から6月の調整期間を含め、乗車人員は5,000人以上/月を確保し、安定的に推移している。

輸送収入：当初見込みを下回る。

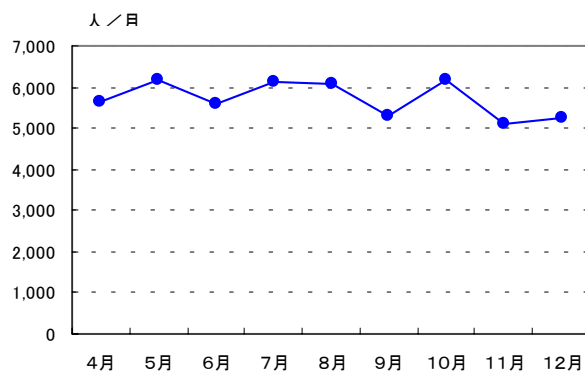
効果が上がっている点：

- ・集落内部に路線を設定したことで高齢者にとってはバス停が近くなり便利になったとの声が多い。
- ・中学生部活動では町内の体育施設に行くために無料バスが利用でき喜ばれている。

効果が上がっていない点：

- ・集落内に路線が回り込むことによって1路線45分という時間を要する路線がある。

図3 輸送人員の推移



評価

対象	評価
利用者利便	・100円の低廉な価格で、きめ細かな路線、かつバス停までの距離を短くすることで高齢者だけでなく、中学生等町民にとって、移動手段が確保されたことで移動利便性は格段に向上したと認められる。
地域の主体的関与	・市街地循環線については町民の寄付により車両を購入し、また町は5,900万円の予算計上を行うなど、地域が主体的に関与している点が評価できる。
事業性	・当初見込みを下回る収入であり、事業性も10%と低い。人口を考慮すれば今後利用の著しい伸びは見込めないことから、利用促進を図るとともに、経費削減についても検討することが必要と考えられる。
間接効果	・特に高齢者の外出機会の創出と拡大に貢献していることは地域活性化に貢献していると考えられる。